

国指定天然記念物「柿田川」

柿田川は、富士山周辺に降った雨や雪が11,000~8,000年前の富士山の噴火により流出した溶岩（三島溶岩流）の中を通り、その溶岩の南端である清水町にて地上に湧き出た地下水が形成する豊富な水量を保つ清らかな川です。

また、川を形成するそのシステム（地質鉱物）が学術上貴重であり、わが国の自然を記念するものとして、柿田川のほぼ全域が国の天然記念物として認定されています。

指定内容 名称 柿田川
 指定基準 「地質鉱物」
 指定年月日 平成23年9月21日
 （文部科学省告示第142号）

安定した湧水量を持つ、富士山系（箱根山系も多く含まれている）の地下水

柿田川湧水は、飲料水、工業用水、農業用水に利用され、上流部には、静岡県と沼津市による水道施設が整備され、飲料水は両施設から静岡県東部3市2町（沼津市・三島市・熱海市・清水町・函南町）に給水されています。



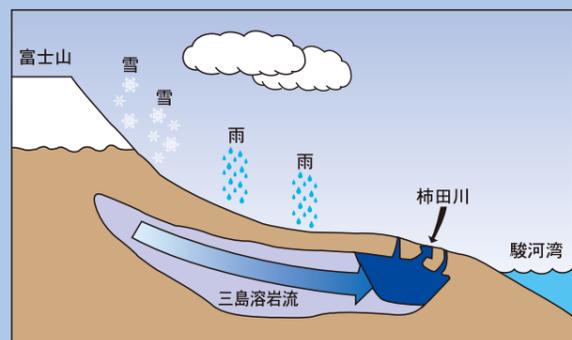
文化財は、わが国の歴史や文化の正しい理解のために欠くことのできないものであり、文化財の保存と活用は、心豊かな生活の源となるとともに、優れた文化の創造と発展の基礎となるものです。

貴重な国民的財産を適切に保護するため、「文化財保護法」に基づき一定の制限が課せられ、「柿田川」も、その現状を変更したり、保存に影響を及ぼす行為をしようとする場合は、文化庁長官の許可が必要です。

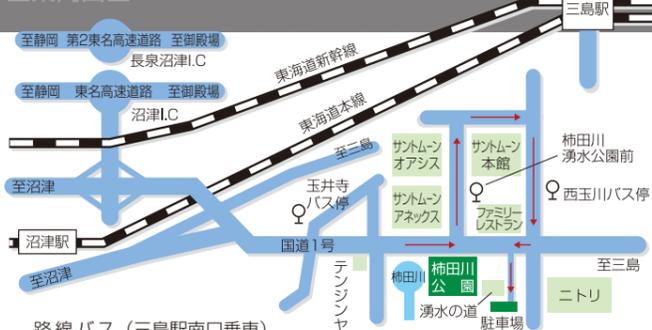
豊かな自然と豊富な湧水は、町の宝であると同時に私たち一人ひとりの貴重な財産です。末長く後世に引き継いでいくため、保護・保全に努めましょう。

こんこんと湧き出す雪どけ水

富士山周辺に降った雨や雪が地下にしみこみ湧き出すまでの時間は諸説ありますが、国土交通省が行ったトリチウム濃度の分析によると26~28年で（柿田川に湧水として）湧き出るという結果がでました。



案内図



- 路線バス（三島駅南口乗車）
- 沼商行き（サントムーン経由）
柿田川湧水公園前下車徒歩約1分
 - 沼津・三島間旧道経由 玉井寺下車徒歩約5分
 - 沼津・三島間柿田経由 西玉川下車徒歩約5分

清水町役場 TEL (055) 981-8224 (直通)

所在地 〒411-8650 静岡県駿東郡清水町堂庭210番地の1
 H P <http://www.town.shimizu.shizuoka.jp/>

国指定 天然記念物
 Natural Monument

かきたかたわ

柿田川



清水町イメージキャラクター ゆうすいくん

静岡県/清水町

自然を守り町民の憩いの場に 柿田川公園



柿田川は、「21世紀に残したい日本の自然百選」(昭和58年)、「日本の名水百選」(昭和60年)、「国指定天然記念物」(平成23年)などに選定され、静岡県東部地域の生活用水の源として、また、都市部に残された貴重な動植物の生息地として、そのすばらしい景観とともに私たちの財産です。しかし、この川の周辺にも宅地化の波が押し寄せ、そのまま放置すれば、川を保護・保全する事が極めて困難となると懸念されました。このため町では、「自然の保護・保全」と「コミュニティ広場の確保」を目的に“柿田川公園”づくりを進め、昭和61年4月、町民憩いの場として、柿田川公園が開園しました。園内の第一・第二展望台からは、年中変わることなく水が湧き出る「わき間」を見ることができ、湧水広場では、実際に水に足をを入れて湧き水の冷たさを体感できます。町では自然のすばらしさを学ぶ場、自然を守る心を養う場として、柿田川の自然を後世に残していくため、今後も公園の整備を進めていきます。

第一展望台

FIRST OBSERVATION DECK

ここは柿田川の最上流部です。富士山などに降った雨や雪が地下水となって国道下から悠然と湧き出る、大小数十箇所のわき間を見ることができます。また、魚を捕らえるカワセミのホバリングや10月下旬～12月にかけて遡上してきたアユなども見ることができます。



柿田川で 見られる生物①

カワセミ (仏法僧目かわせみ科)

カワセミは、清水町の町の鳥として制定されており、頭は暗緑色で青い小斑点があり、体は青緑色とオレンジ色をしています。渓流の翡翠(ヒスイ)と呼ばれる美しい鳥です。水辺の木の枝から、あるいはホバリングから、水中に落下して魚を捕らえて食べます。



アユ (アユ科)

清流に住むアユ科の淡水魚で、全長は約30cmに達します。体は流線型で脂れをもっています。川にさかのぼって来た成魚は1㎡ほどのなわばりを作り、川底の石に付着した藻類を食べて生きています。晩秋、上流の砂礫で群れをなして産卵する姿が見られます。(写真の中で斑点のあるのは“サケ科・アマゴ”)



柿田川で 見られる生物②

ミシマバイカモ (キンポウゲ科)



淡黄色の花が、梅の花に似ているので、この名前がつきました。水の汚染に敏感で、柿田川でも中・上流部にしか生息していません。柿田川を代表する植物の一つで、清涼な湧水の中、砂地に根を下ろしています。花の咲く時期は、一般に5月から9月頃ですが、柿田川では場所によっては、一年中咲きます。三島市の楽寿園小浜池で発見されました。

柿田川で 見られる生物③

アオハダトンボ (カワトンボ科)



水生植物が多く生える清流に生息しています。県内では、柿田川流域にしか見られない極めて珍しいトンボです。雌雄ともに、緑色を帯びた金属光沢が大変美しく、雌は羽の先に白い点があり、判別しやすくなっています。普通5月下旬から7月上旬に見られますが、柿田川では、11月初旬まで観察できます。

柿田川公園案内図 KAKITA RIVER PARK INFORMATION MAP



湧歩橋

ACCESS BRIDGE "YU HO KYO"

高齢者や車椅子をご利用の方も、町営駐車場から芝生広場へ簡単にアクセスできる連絡通路です。



第二展望台

SECOND OBSERVATION DECK

この湧き水は、昔、紡績工場が井戸として利用していたものです。周辺の木立からの木漏れ日と湧水の高い透明度、また、湧水の噴出により噴き上がる砂が織りなす水の色は、幻想的な青をつくり出しています。



湧水広場

CROSSING PLACE

実際に水に触れることができます。また、水深が浅いため、小さなお子様でも安心して水遊びが楽しめます。



駐車場

PARKING

普通車50台、大中型バス・小型バスがそれぞれ8台駐車できます。普通車は1回200円、バス等は1回1,000円です。



木製八つ橋

WOODEN WALKWAY

公園の散策路として利用されています。また、八つ橋から柿田川中流の優雅な流れを見ることができ、ここでも豊富な湧水を感じることができます。



公園内においても大小さまざまなわき間を見ることができますが、通称「舟付場」と呼ばれるわき間には、かつて製紙会社が使用していた2つの井戸の跡からきれいな水が湧いています。冬になるとアユの「産卵」などを見ることができます。



右記事項を
守って
ください

- 柵(さく)や八つ橋から出ないでください
- 園内は汚さずにゴミや空缶はお持ち帰りください
- ペットを連れての入園はご遠慮ください
- バイク、自転車は所定の場所へ駐輪してください
- キャンプや炊飯はしないでください
- 動植物の採取はしないでください
- コインなどを湧水に投げ入れないでください
- 公園内は禁煙です